

幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会 News【第2号】

平成 20 年 2 月 25 日(月)、「平成 19 年度 幾春別川ふるさとの川づくり 懇談会」を開催しました。



▲ 平成 19 年度 幾春別川ふるさとの川づくり懇談会の様子

平成 19 年度 幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会の主な発言から

懇談会の主な発言をご紹介します。

幾春別川を軸としたネットワークづくりについて

- ・幾春別川流域の二市一村は、昔は川に対してネガティブな関係であったが、三つの川の会のいろいろな活動でかなり改善されてきたと思っている。
- ・幾春別川を軸としたネットワークづくりとは具体的にどんな方向性、指向性が出てきたのか教えてほしい。
- ・貯水池公園のワーキングに参加している。その中で管理用通路をつなぐ意見があったが、上下流のネットワークづくりは良い構想だと思う。
- ・下流の北村から上流まで安全面や景観的につながりをもつ必要があると思う。

幾春別川上流での川づくりについて

- ・三笠の水辺の楽校は、最近あまり使われていないようだが、いろいろな意見を聞いて利活用を進めて頂きたいと思う。
- ・三笠市内で、ヌッパの沢川、三笠幌内川で護岸工事などを計画しているが、水辺への安全なアクセスが課題となっている。
- ・インフラ整備は大事だと思う。水辺の楽校の利活用などこれからもインフラ整備をお願いしたい。

平成 19 年度 幾春別川ふるさとの川づくり懇談会を以下のおり開催しました。

・ 日時:平成 20 年 2 月 25 日(月)
10:00~12:00

・ 場所:岩見沢市コミュニティプラザ
多目的ホールA

当日は委員 11 名が出席しました。主催者である岩見沢河川事務所長から挨拶の後、事務局から今年度の取り組み結果について報告がありました。

その後、「幾春別川を軸としたネットワークづくり」など平成 20 年度の取り組みについて事務局から説明があり、今後の川づくりなどについて、意見交換を行いました。

意見交換では、子供たちの意見の募集や施設の利活用などについて多くの意見が出されました。

幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会 委員

氏 名	所 属
石黒 武美	NPO 山のない北村の輝き 理事長
上野 英一	(社)岩見沢青年会議所 理事長
嵯峨 義輝	幾春別川をよくする市民の会 会長
榊原 郁子	北海道教育大学岩見沢校 名誉教授
高篠 和憲	NPO 三笠森水遊学舎 理事長
奈良 健二	空知管内商工会連合会 会長
深田 倫男	岩見沢市教育委員会 教育部長
宝沢 康晴 (座長)	FM はまなす JAPAN 放送局 部長
眞野 弘	北海土地改良区 理事長
金子 満	三笠市 建設管理課長
吉永 美喜男	岩見沢市 公園緑地環境課長
八木 盛繁	札幌土木現業所 岩見沢出張所長
江幡 一男	幾春別川ダム建設事業所長
前田 富男	桂沢ダム管理所長
山越 明博	岩見沢河川事務所長

今後の川づくりについて

- ・今後の川づくりの参加者に何らかの形で、子供たちを入れてほしい。子供たちを入れるという面白い発想、固定概念のない、大人とはまったく違う発想ができるので、何らかの形で子供たちの意見を取り入れる、意見交換をするといったことをしてほしい。そうすることで子供たちを集めることもできると思う。
- ・岩見沢市では、川の会以外にも花と緑の少年団などがあるが、花や木などの活動が主体となっている。川に親しむ機会があれば参加していきたいと思う。
- ・チャリンコでチャレンジなども来年度に向けて考えていく余地があると思っている。また、幾春別川を見学、探検するなども考えている。
- ・貯水池公園は少し遠いこともあり、子供たちの利用は減っているので利活用を図って水に親しめる場所として頂きたい。
- ・以前にチャリンコチャレンジで子供たちのサイクリングをやっていたのだが、川に近づいてはいけない、怒られるといった状況で水辺に連れて行ったときの喜びを思い出した。
- ・最近ラジオ体操や百人一首のような子供会の活動が少ないように思う。子供たちの組織を利用しながらうまくまとめていくようなことも考えられる。
- ・豊平川に入っている山鼻川という川で、幾春別川でやっているような岩を使った人工のカヌーコースを造っている、幾春別川は全国に先がけてこのようなことをやっていると思う。水辺の楽校だけでなく、そのような施設がいろいろできて他の河川の模範になるのではないかと。
- ・ただ、カヌーの HP に批判的な意見もあった。人工的になった川を自然に近づけようとしたのだが、その人は、川の石ひとつ動かすこともおかしいのではないかと意見だった。このように、デザインや方法などには、多くの人の意見を取り入れて合意を図っていくことが必要ではないかと思った。
- ・景観的にも山の中にイチョウ並木をつくるとか、それはどうかと思うようなこともあるので、皆さんの納得のいくお金の使い方をしてもらいたい。

- ・北村はドジョウが有名だったが、サギが多くなったり、三面張り水路のせいで、ドジョウが少なくなっていたが、最近は対策によって少しずつ戻りつつある。
- ・特産品のヤツメウナギもずいぶん少なくなったので、産業的にも厳しくなっている。この会のように川づくりについての活動とつながる部分もあるので、今後ともよろしくお願ひしたい。
- ・北海道管理の利根別川では、ラブリバー制度の認定を受けて市と整備を進めてきている。幾春別川と同じように水面と周辺地盤の高さが違うので、水辺へのアクセスが課題になっている。

事務局から

- ・管理用通路が分断されているところがあるので、今後、順次整備しつつないで、歩ける走れるようにしたいと思っている。そうすることでネットワークがもっと良いものになっていく。
- ・将来的に幾春別川を上流から下流までカヌーで下れるようになると良いと考えている。
- ・ヤツメウナギやドジョウなど産業につながる意見も頂いたので河川整備には注意していきたい。
- ・子供たちの参加については川での勉強会も開催しており、市との協力を含めて検討させて頂く。
- ・施設の整備とその後の利活用については、皆さんの意見を踏まえて検討させて頂きたい。

事務局からのお知らせ

「幾春別川ふるさとの川づくり懇談会」は公開で行い、どなたでも傍聴できます。開催日が決まりましたら、石狩川開発建設部の HP 等でお知らせします。是非、ご来場ください。

石狩川開発建設部 HP アドレス

<http://www.is.hkd.mlit.go.jp/>

ご意見やお問い合わせは、下記事務局
石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所
〒068-0007 岩見沢市 7 条 9 丁目
TEL 0126 (23) 9555
FAX 0126 (25) 1697
まで、お気軽にお寄せください。